

## 会報 57 号

	頁
1 ご挨拶	堀内浩太郎 1
2 堀江さんが帰ってきた	堀内浩太郎 2
3 第 12 回びわ湖クルーレス・ソーラーボート大会について	鶴沢 潔 5
4 国際人力ビークル協会 (IHPVA) の公式水上速度記録集	堀内浩太郎 7
5 フォイルカヤックの発売は 5 月(続)	堀内浩太郎 10

### ご挨拶

今回は会報の発行が諸般の事情で遅れていまして申し訳ありません。会報をホームページに掲載するに当たっての手順がまだ暗中模索の状態にして、それに清水でのレースが近づき、思うに任せません。レースを前にして掲載する原稿が出にくい事情もあります。次号からは何とか日付通りに出したいものだと考えております。

今回は協会に関係のありそうなニュースを主体にしたページ数の少ないものになりましたが、過渡期のことでもありお許しを頂きたいと思えます。

## 堀江さんが帰ってきた

堀江さんが波浪推進船に乗ってハワイから紀伊水道まで7000km110日の航海を終わって帰って来た。この船は波に揺られて船首に付けた翼が水中で上下に動く際に推進力を発生して走り続けたものである。

もともこの推進装置は我々の大会に毎年参加している東海大学海洋学部の寺尾先生の研究で、寺尾先生は従来も漁船にこの翼を取り付けて動力なしで5ノットの速力で走らせておられたし、1991年のアメリカズカップヨットレースに当たってはこの装置をレース艇に取り付ける検討もしたのです。

寺尾先生を良くご存じ無い方のためにもう少し補足すると、ここ3年の我々のレースは清水で行われており、東海大学の皆さんがレース主催のために骨を折って下さっていますが、その大將が寺尾先生で、毎年実行委員長を務めて頂いているのです。従って先生は正に我々のお仲間、そして先生は人力ボートレースやソーラーボートレースを開催しようと言いだした一人でもあるのです。従いましてソーラー人力ボートレースに参加されている皆様、レースをサポートして下さっている皆様とともに世界初の技術的大挑戦に成功された寺尾先生に心からのお祝いと賛辞をお伝えしたいのです。

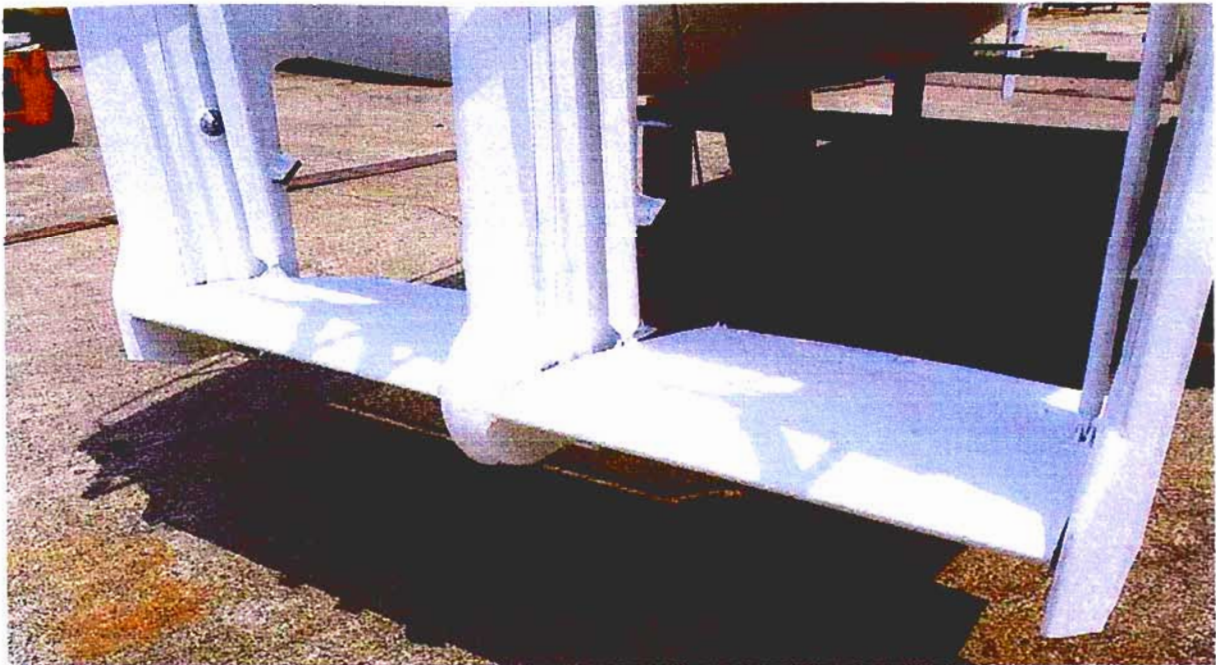


波浪推進船は前例がないためヨットとして船検を取得しており、スタイルはカタマランによく似ている。セールは搭載しているが緊急用のためブームはない





船外機で走る〈サントリー・マーメイドII〉。前端のフラップのおかげで全長9.5mのカタマランとしては非常に高い安定性を誇っている。ドッグハウスの上部はシャープ製の太陽電池で覆われており、前部にはライフラフトが収まっている



波の力を受けて可動する波浪推進のフラップ。ドルフィンキックの要領で水を蹴る。左右に分かれていることによって、推進力を発生する能力が高まっているという

記：上の3枚の写真は舵誌2007年10月号から転載させて頂きました。



地元の幼稚園児から花束をもらい笑顔をみせる堀江謙一さん。6日午前、兵庫県西宮市、西畑志朗撮影

# 100歳まで冒険 宣言

海洋冒険家の堀江謙一さん(69)が6日朝、ハワイ・紀伊水道間7千キロの旅を終えた「SUNTORIYマーマイドII号」とともに母港の「新西宮ヨットハーバー」(兵庫県西宮市)に帰ってきた。帰港セレモニーには、支援者や市民ら約300人が集まり、波の力だけを頼りに前進した110日間に及ぶ冒険航海の成功を祝った。(浅倉拓也)

## 堀江さん、母港へ

マーマイドII号の純白の双胴とともに堀江さんが姿を見せると、支援者や市民らから拍手がわき起こった。堀江さんはお祝いの花束を手に「みなさんの変わらぬ応援のおかげで無事ゴールできました」と感謝。当初の計画より1カ月以上も長くかかった航海にも「食料も残っている、と周到な準備が日本を代表するソロセーラーの挑戦を支えていることを

す」と余裕をみせ、集まった堀江ファンを沸かせた。世界初の波浪推進船による航海については「向かい風で速度が半分くらいになることはあっても、(波の力だけで)ちゃんと進んでくれたのは驚異的なこと」とふり返り、「人類の英知を集めて化石エネルギーから自然エネルギーに変える時代が来ている。この航海をきっかけに自然エネルギーへの関心が高まれば」と語った。

さらに、「3けた(の年齢)までがんばる。近いうちに新たな航海に出たい」と将来の冒険への意気込みを見せた。なぜ、冒険を続けるのか。「『やりたい』と『やれる』がそろえば、みなさんだっけ月に行くんじゃないですか」。堀江さんはそう感じ、冒険へのあくなき情熱は、周到な準備が日本を代表するソロセーラーの挑戦を支えていることを印象づけた。

08-7-7 アサヒ

## 天声人語

「絶対に120日間は心配せん」といって。騒いだら、あかんで。母親に言い残して、堀江謙一さんがヨットで太平洋に船出したのは46年前のことだ。あとは風だのみ。94日目に米國に着くと、23歳の青年は「太平洋ひとりぼっち」として時の人になった▼今度の航海は、風ならぬ「波だのみ」だった。ハワイから日本までの7千キロを110日で渡りきった。波が上下する力を、水泳のバタ足のような動きに変えて進む。意表をつく「波浪推進船」による世界初の航海である▼波で進む船は、19世紀末の英國でも研究されたらしい。実験船がゆくり進んだ記録が残っているそうだ。だが、地中の化石燃料を湯水のように使う20世紀の暮が開き、もはや無用と忘れられていった▼その石油の世紀をくぐり抜けた、忘却の海からの再浮上である。太陽の光、吹く風、響せる波。これまでの地中だのみから、地表の「恵み」をもらえていく時代へ。「今度の航海で関心が高まれば」とゴールした堀江さんは言う▼サミットが始まって、国内のエコ熱は最高潮だ。昨夜は全国の各地で8時から照明が消えた。家庭で試みた人もいただろう。過剰な明かりを消して闇に頼りめは、功徳を積むような心地がある▼ある試算によれば、世界中が日本人と同じ水準で生活すると地球2・4個分の資源が必要になるそうだ。ダイエツトが必要だが、便利さの贅肉を落とすのは簡単ではない。プームに終わらない継続が力だろう。ゆっくりだが着実だった堀江さんの航海を、「こは見習わせてもらって」。

08-7-8 アサヒ



## 第12回びわ湖クルース・ソーラーボート大会について

表記のレースが今年八月びわ湖において行われます。我々のレースと直接の関係はありませんが、同じソーラーボートのレースであって、しかも大変ハイテクなレースを含んでいますので皆さんにとって興味深いのではないかと思われました。これまでもこの会報にご投稿を頂いた東大の鶴沢先生から今年のレースの詳細を頂きましたのでご紹介しようと思います。鶴沢先生率いる東大チームは確か今まで2回先端技術部門で優勝しています。

8月9日(土)には普及部門のレースが滋賀大学附属小中学校プールにおいて行われます。25mのプールの直線コースでラジコンなしのソーラーパネルのみ(バッテリー等使用不可)を搭載した無人ボートのレースです。競技のクラスとしてはソーラーパネルの面積が200平方cm以下と650平方cm以下の二種類ですが、いずれも小面積なので船も小さくなることでしょう。でも我々の行っていたビニールプールのソーラーボートレースの船よりは大きく、スピードもあると思います。またこの船で団体戦と称して5艇による折り返しのリレーや「的当てゲーム」もある外「アイデアコンペ」(パフォーマンスコンペ、技術的コンペ含む)など工夫されたレースも行われるようです。技術的コンペには風力、燃料電池等ほかの自然エネルギーの使用を認めるそうです。

8月23日(土)24日(日)には先端技術部門(マキノ大会)が行われます。びわ湖のマキノ町サニービーチから竹生島まで決められた地点を通過して往復する約20kmのレースです。これはGPS、コンパス、コンピューターによる自動操縦、すなわち自律走行のレースで、遠隔操作に依らず搭載されたセンサの情報のみを用いて搭載したコンピュータ等の指令で走らねばなりません。従ってこれこそハイテクなレースだと思います。

ソーラーパネルは2.0平方m以下、バッテリー、コンデンサ等の搭載は認めるがそのエネルギー総量は20Wh以下に制限されています。

一方船体の大きさ、重さについては制限が一切ありません。また緊急時などには審判員の指示をもらって遠隔操作で緊急停止させ得ることも要求しています。

もう一つ、びわこ競艇場で9月27日(土)に行われる予定だった「びわこ競艇場大会」がありましたが、競艇場の都合によって開催できなくなったそうです。ただ別日程で試走会を開催すべく調整中とありますので、開催されるかもしれません。

この大会に用いられるボートは無人のラジコンボートで2平方以下のソーラーパネルと25Wh以下のバッテリーを動力とし、競艇場の周回コース(600m)を1周する「1周回タイムトライアル」と同じコースを1時間周回して周回数を競う「1時間耐久レース」が予定されていたそうです。

上記詳細につきましては、大会実行委員会から出された「大会の実施要領」、「先端技術部門、レースポート規定」が発表されていますのでこれをご覧下さい。また実際のレースの詳細については会報〇〇号に鶴沢先生の手書かれたレース報告を参考にして頂けると思います。



2007ノーラーポット大第12回 実施要項  
会 先端部門 レギュ 080630.doc

## 国際人力ビークル協会の公式水上速度記録集

久しぶりで IHPVA（国際人力ビークル協会）のホームページを見ておりましたら、2007年8月版の公式記録集がありましたので、ご報告します。

次のページの最初は男子一名乗りの100mフライングスタートの記録3件が出ています。その三番目にご承知のデキャビテーターの記録18.50ノットが見えます。

その下にマルチライダー(二人以上)の記録があって、我がスーパーフェニックスの記録、18.67ノットがあり、これが8年間続いた人力による水上の世界最高速度であることが分かります。

その他に女性の記録、2000mのスタンディングスタートの記録、24時間のトライアルの記録などありますのでご覧下さい。

コギトチームが20ノット越えを目指して活動開始したのは3年ほど前と思いますが、未だにその目的を達していません。折角の世界最速の伝統を継いで、夢の20ノット達成を是非実現して欲しいところです。



# International Human Powered Vehicle Association

## Official Speed Records

ALL NEW WATER RECORDS ARE UNDER REVIEW - AUGUST 2007

### WATER - MENS 100 METER FLYING START SPEED TRIAL (Single Rider)

Speed MPH	Speed Knots	Time Secs	Type	Name	Designer	Rider	Location	Date	Publication	Elevation Meters
14.89	12.94	15.02	w1	Flying Fish2	Abbott & Brooks	Allan Abbott		27 Sep 87		
17.78	15.45	12.58	w2	Hydroped	Sid Shutt	Gary Allen	Milwaukee, Wi	18 Aug 91	SO91N	180
21.28	18.50	10.51	w3	Decavitator	MIT	Mark Drela	Boston, Mass	27 Oct 91	ND91N	20

[Return to Index](#)

### WATER - MENS 100 METER FLYING START SPEED TRIAL (Multiple Riders)

Speed MPH	Speed Knots	Time Secs	Type	Name	Designer	Rider	Location	Date	Publication	Elevation Meters
21.49	18.67	10.41	w5	Super Phoenix	Fumitaka Yokoyama	Masayuki Akasaka Shigeru Takanagi	Shizuoka, Japan	27 Aug 00		

[Return to Index](#)

### WATER - WOMENS 100 METER FLYING START SPEED TRIAL (Single Rider)

Speed MPH	Speed Knots	Time Secs	Type	Name	Designer	Rider	Location	Date	Publication	Elevation Meters
11.51	10	19.44	w4	Pogo Foil	Parker MacCready	Molly Knox	Vancouver Lake, Wa.	Aug 90		1
13.13	11.41	17.04	w3	Decavitator	MIT	Dava Newman	Boston, Mass	27 Oct 91	ND91N	20

[Return to Index](#)

### WATER - MENS 2000 METER STANDING START SPEED TRIAL (Single Rider)

Speed MPH	Speed Knots	Time Secs	Type	Name	Designer	Rider	Location	Date	Publication	Elevation Meters
11.19	9.73	6:39.64	w1	Flying Fish	Abbott & Brooks	Allen Abbot	Vancouver, BC	27 Aug 86	F86HP	0
12.84	11.15	5:48.53	w1	Flying Fish2	Abbott & Brooks	Steve Hegg	Long Beach, CA	20 July 87		0



[Return to Index](#)

**WATER - MENS 24 HOUR - STANDING START SPEED TRIAL (Single Rider)**

Miles	Km	MPH	KPH	Type	Name	Designer	Rider	Location	Date	Publication	Elevation Meters
104.66	168.43	4.36	7.02	w5	Pedalos	Harry Howard	John Howard	Sparta, WI, USA	19 Aug 00		

[Return to Index](#)

**WATER - 24 HOUR - STANDING START SPEED TRIAL (Multiple Riders)**

Miles	Km	MPH	KPH	Type	Name	Designer	Rider	Location	Date	Publication	Elevation Meters
56.08	90.25	2.34	3.76	w6	MicroCat Ultra	Hughes/Hulbig	Kevin & Karin Hughes	Sparta, WI, USA	19 Aug 00		

[Return to Index](#)

**HPVA DISCLAIMER**

These records are displayed in Web format for information only.  
The master set of official IHPVA Records is maintained by the IHPVA Records Committee and Historian.

[Return to Index of Records:](#)

Contact: [Webmaster](#) Copyright © 2008 IHPVA Rev. Wed, 12 Mar 2008 14:31:06 GMT [CCB]

## foilカヤックの発売は5月(続)

前号に同名の記事を出しましたが、6月末になってまだ出荷はされてないようです。ホームページには「近日出荷」となっていますので、まだ出荷が始まっていないのでしょう。

それはそれとしてホームページ上に面白い記事が現れました。この水中翼カヤック(foilカヤック)に乗るための3泊のクリニック(臨時講座、短期講座)がポルトガルで行われることになっています。これに参加するには木曜日の晩にポルト国際空港でピックアップして貰い、ホテルに行って日曜日に空港へ戻るまで、みっちり水中翼カヤックを漕ぐことを教わるようです。フライカヤックを走らせるためには競走用のカヤックを乗りこなす腕前が必要なのであらかじめそのレベルが示されているのです。このクリニックに行かねばならないかどうかは下の表で判断しろということです。これより遅い人はクリニックで訓練を受けないと離水できませんよ、ということでしょう。(受けても離水できない人は居るでしょうに)

表では各体重に対して500mコースでどの位のタイムの実力を持っているかを示しています。そして体重のある人ほど速く漕げる漕力を持っていると上がれないというのが面白いところです。こういうレベルの表示方法があるのかと感心しました。

体重 (kg)	貴方の500mのタイム
85~95	1分50秒以下
75~85	1分55秒以下
65~75	2分以下
55~65	2分10秒以下